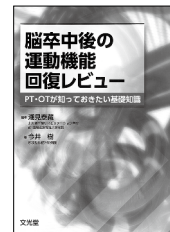


潮見泰藏 (監), 今井 樹 (著)

脳卒中後の運動機能回復レビュー PT・OT が知っておきたい基礎知識

佐野 恭子
(兵庫医療大学, 作業療法士)



冒頭の「監修のことば」にある通り, 近年, 中枢神経の可塑的変化や神経ネットワークの再構築による回復の可能性がよりいっそう明らかになったことで, 脳卒中リハは治療としての新たな時代を迎えていると思われる。本書は, PTである今井 樹氏が, 長きにわたる研鑽を経て得た知見のごく一部を文献レビューのかたちでまとめられたものである。PT・OT 養成校の学生はもちろん, 科学論文に接する機会の少ない初学者にも理解しやすい平易な文章で書かれているが, 脳卒中リハに携わる以上は知っておくべき基本的かつ重要な情報が含まれているので, 職種や経験を問わず手に取っていただきたい。

第1章「基礎および臨床研究の成果を臨床の場面へ」では, 各治療アプローチ法を獲得するにはその背景 (メカニズム) の理解が必須であること, 基礎研究と臨床研究は補完関係にあり, 両者の知恵の結集こそが根拠ある治療の提供とリハ“学”の構築につながることが述べられている。短い章ながら, 経験則に流れず新しい知見を積極的に吸収する姿勢が治療者の責任であり武器であることを, 読

者は再認識させられるであろう。そのような著者の知的好奇心は, 最終章 (第8章「視点を広げてくれる臨床研究」) でもとどまることなく反映されており, 日常生活や自主訓練の指導を別の視点でとらえる機会を与えてくれる。

本書の中核を成す6つの章とタイトルは, 第2章「早期リハビリテーションの有効性」, 第3章「脳損傷後の運動機能回復メカニズム」, 第4章「脳卒中後の予後予測」, 第5章「やる気は脳卒中後の運動機能改善に重要な要素」, 第6章「“豊かな環境”が大切」, 第7章「脳卒中患者に対する mirror therapy は有効なのか」である。内容はいずれも脳卒中リハの根幹にあたる。以下の項目は, 本書の紹介のために私が重要と感じた内容を一部示したものである。これらに関して, 著者は最新の基礎研究および臨床研究の文献を含めた詳細な説明と解釈を加えている。脳卒中リハの根拠を成す知識とそれに伴う治療アプローチは, 日々更新され進歩させるべきものだということを痛感させられる。

・早期リハの時期, 内容, 頻度による効果と長期的にみた回復の

到達点

- ・脳卒中後の運動機能回復メカニズムによる運動の「質」的改善への寄与
- ・運動機能回復の予後予測因子としての鏡像運動
- ・やる気 (ドーパミン系の賦活) と運動機能回復の密接な関係
- ・運動および認知機能回復への寄与が証明された“豊かな環境”
- ・robotic devices の有効活用への期待
- ・mirror therapy の効果とメカニズムに関する最近の懐疑的知見
- ・行為観察法 (action observation therapy), BATRAC (bilateral arm training with rhythmic auditory cueing) に代表される新しいニューロリハの潮流

文中には, 著者の視点に基づく補足情報が随所に示されている。その点で本書は, 科学論文を批判的に読み, 自身の臨床や研究に活かす治療者の姿勢を学ぶ手がかりにもなるであろう。

B5判 120頁 3,600円+税
文光堂 刊
☎ 03-3813-5411